江別市自治会連絡協議会機関紙

ななかまど

自連協ホームページはこちら！

題字の「ななかまど」は江別市の木です

江別市自治会連絡協議会ってなに？

（通称：自連協）

江別市自治会連絡協議会は、自治会相互の連携を図りながら、市全体で住みよいまちづくりを進めていくために、市内の単位自治会（計162自治会）・自治連合会で設立した協議会です。会長のほか副会長６名、理事23名、監事３名の役員体制で取り組んでいます。

江別市まちづくりアドバイザー『ヒロ福地さん』と「令和の自治会」をテーマに対談しました!!

タレント・ラジオDJとして活躍するヒロ福地さん（大麻出身）は、現在「江別市まちづくりアドバイザー」を担われています。

今回は、「令和の自治会」をテーマに「ななかまど編集委員」を務める２人の自治会長との対談を行いました。日頃、自治会長として現場で活躍されているお二人から、自治会活動に関する様々な課題や現状を聞き、今後の自治会活動の展望をヒロさんとともに語っていただきました。その様子を自連協事務局員の飯田がお伝えします！

ヒロ福地さん
江別市大麻出身
江別市まちづくりアドバイザー

※対談は、サッポロ珈琲館【Rinboku】さんのお部屋をお借りして行いました。

裏　悦瑞さん
帯広市出身
上江別第二自治会会長

佐藤　誠一さん
苫小牧市出身
新栄台西自治会会長

飯田：本日は「令和の自治会」をテーマとしていますが、❶「地元を語ろう！」、❷「自治会活動を通じて」、❸「これからの自治会活動」の３本立てでお話しいただこうと思います。

❶ 地元を語ろう！

飯田：ヒロさんが住んでいた大麻地区の写真です。
佐藤・裏：きれいですね。駅にくっついてる列車はついこの間まであったんですよね。
飯田：「じかん」というレストランだったという話を聞いていましたけれど。
ヒロ：そう、カレーが有名だったよね。そもそも、僕が知ってる大麻駅って北口のイメージが強いんですよ。古くから大麻に住んでいる皆さんがイメージする大麻駅は、北口が表って思う人が多いんじゃないですかね。
裏：私も若い時に大麻に住んでいましたので、そのイメージですね。
ヒロ：北口の玄関から入って改札があって、ちゃんとロビーがあって…。札幌に行くためには１回、中の改札を通ったあと、歩道橋を渡って向こう側に行かないとならなかったんだよね。
裏：大麻駅は昔、ＪＲの乗降客が確か全道トップクラスでもう満杯で、座れないほどですごかったです。
飯田：大麻は商店街もありますよね。

1980年代の大麻駅南口

ヒロ：中町は商店の看板下ろしちゃったところも多いよね。
裏：あそこは、なかなか東京っぽい街ですよね。当時は、商店がずらっと並んでいて、なんか東京に来たみたいな感じがしました。
飯田：昔はにぎわっていたんですか？
ヒロ：すごいですよ！本当に、自転車だらけ。僕らは自転車に乗っている子ども側だったけれど、塾の前はもう何十台も自転車が停まっていてね…。本屋さんの前にも立ち読みしている子どもたちがいるから、いつもにぎわってるし。お盆休みは、中町公園の真ん中でやぐらを建てて盆踊りをしたり、派手ですごかったですね。
飯田：他の商店街にも行ったことはありましたか？
ヒロ：ありました。大麻は、東町、中町、扇町と3つの商店街がありましたね。
佐藤：大麻銀座商店街は、今も結構お店がありますよね。
裏：よく行ってましたよ。あそこに、リーガルの靴の職人さんがいたんですよ。すごい有名な職人がいた記憶があります。

ヒロ：そこに買いに行っていたんですね。
佐藤：ブルジョワですね。(笑)
裏：その方たちも今はもういなくなっちゃってね…。
ヒロ：まだあのお菓子屋さんはありますよね。大ちゃん麻ちゃんが有名な…「宝来軒」！
飯田：宝来軒での思い出はありますか？
裏：あそこでよく団子を買っていましたね。
ヒロ：僕が小さいときはホクレンのスーパーが中町商店街にありました。毎日お母さんたちはそこで買い物して帰ってましたよ。当時は、やっぱり近くの商店街で買い物をするというのが、一般的でしたから。振り返ってみると、今とはやっぱり買い物の形態も違ってるし、買い方も違っていましたね。

❷ 自治会活動を通じて

飯田：次に「自治会活動を通じて」ということで、自治会の担い手不足、加入の促進、高齢化など、課題はたくさんありますが、自治会長のお二人が見る現状はいかがでしょうか？
佐藤：うちの新栄台西自治会は色々取り組んでいて、問題はかなり解決されてきています。
裏：デジタル化とか新しいことに取り組む有名な自治会ですよね。
佐藤：私は16年ほど会長をやらせてもらっていますが、会長になってから、若い人たちだけが集まって活動するということが始まりました。その当時から70歳以上の方がみんな役員で、役員の担い手、女性の役員が少ないということをずっと聞いてきました。
そこで、ちょっとやり方を変えたらということで、2年ごとに役員が変わるときに、お声かけを全部現役世代の方にしたんですよね。そして、子どもと一緒にやりませんかと誘いました。10年ぐらいかけてメンバーが入れ替わりながらも変えていって、役員の方向性とかを決めたり。まずはみんなメールからやってみようと、その積み重ねで…。
ヒロ：そういった声かけは大切ですよね。
佐藤：結果として、会費徴収も振り込みにしたり、役員会議も基本的にはネットを使って日々やっていて、今まで月1回だった役員会も、お祭りごとなどイベントの1ヶ月前に会議をしましょうと。今では年に3回ぐらいしか集まっていません。
コロナ禍があったことで、それらのことが当たり前になったんです。今までは反対する人もいましたが、少し認識が変わって、普通だったらコロナ禍が終わったら元に戻っちゃうんだけど、私たちはこのまま元には戻らず今までどおり続けています。
飯田：こうしてデジタル化することは、負担を減らすことにも繋がりますね。裏さんはどうですか？
裏：うちは、一般的な自治会だろうけど、それでもまだ良いほうかと思っています。来年60周年を迎えるところですが、新しい考え方に転換しなければいけないみたいなことが役員の中にある状況です。
ヒロ：60年の歴史があるんですね。
裏：すごく古いんですよ。最近、昭和30年代くらいの家がどんどん壊されて、アパートや新しい家が建っています。最近、引っ越されてきた若い方は活動に積極的に参加しようっていう意識がありますね。花壇整備は小さい子どもを連れてきておんぶしながらやってくれたり、色々な人がいます。
担い手不足というのはこの間の研修会でもありましたけど、人材の探し方が下手なのかもしれないということがわかりましたね。うちの育成部は２人とも現役世代の方です。忙しい中でやってくれているので、自治会自体の考え方を変えようと言うんだけど、その地域の考え方を変えるのはかなり大変ですよね。ちなみに加入率としては、うちの自治会はそんなに低下してないと思うんだよね。引っ越してきた人はみん

な入ってくれるし。アパートはやっぱり業者さんによりますけどね。
飯田：現在の江別市全体の自治会加入率は63％です。
裏：それは低いの？
飯田：道内の地域によっては、50％を切ってる市町村もあるようです。
ヒロ：人付き合いを億劫に思う人も増えているんですかね。
裏：そもそも自治会ってどこから始まったんだろうね。すごい組織だよね。
ヒロ：戦前から、もしくはそれ以前からですよね。向こう3軒両隣とかの繋がりを頼ってきた。でも大事なことですね。最近よく聞くのは、新しく引越して来た人が、お隣に挨拶をしないこともよくあるみたいで。長く住んでる人にとってみると、ご挨拶からスタートしてっていうことが当たり前だと思っていたものが、現代では全部覆されちゃうわけですよ。しかし、現実としてこういうことはあって、おそらくどの地域でも起きてるんだろうなと思いますね。人付き合いや地域の繋がりってとても大切なんですけどね。
佐藤：私は苫小牧から来たので、苫小牧のときは自治会のことはよくわからなかったんですけど、ここに来てから、除雪するときに人が出てきて繋がりができましたね。
裏：除雪コミュニティですよね。立ち話も多くなりますよ。除雪車が来たらもうみんな一気に出てくるじゃないですか。まず置き雪をよけるのをやりながら、コミュニケーションをとりますよね。いろんな情報が入ってなかなか面白いですよ。

❸ これからの自治会活動

飯田：最後のテーマに移りたいと思います。これからの自治会活動についてです。若い世代の参加や電子回覧板の導入だったり、昔とは違うところが出てきていますが、どうでしょうか。
佐藤：さきほどと重複しますが、自治会費の徴収と自治会回覧はデジタル化した方が良いと思います。私の自治会では、会費徴収システムに登録してくれている方が720世帯のうち650世帯くらいです。残りの方は、自分で振り込むようにしてくれています。それによって実際に、班長さんの負担が軽減されています。そのシステムを管理する人ですが、デジタル部というのを作ったんですよ。デジタル化はできないと思っている自治会も多いと思うんですが、できないことはないのかなと思います。
裏:できるけど、できないと思い込んでいるところがあるかもしれませんね。うちは、花壇整備のときに、あまり面識がなかった 50 代くらいの方がいて、何の仕事をしてるのか聞いたら「IT 関係だ」ということで。「今度デジタル部を作ろうと思ってるんだけどやってみませんか」と聞いてみたんですよ。そしたら、「いいですよ、やりますよ！」と言ってくれて。そういう人がいると、急にデジタル化が進むんですよね。
ヒロ：まさに人材発掘ですね。
裏：日頃から目を光らせて、普段来てない人に声をかけるとか。これはすごく重要だと。

佐藤：いまの60代の人たちはみんなスマホが使えますからね。若い人でもやっぱり地域に貢献したいって人はいますから、今のうちに取り組むことが大切ですよね。
ヒロ：全国の自治会で使える共通したアプリとかを、国で作るというのもありですよね。
佐藤：うちの市には大学があるからさ。開発してもらえたりしないかな？(笑)たとえば、地域通貨にすればいい。学生が作ったアプリで会費を江別ペイにするとかね。
ヒロ：あとはアプリを使った人は例えば「会費を一部免除しますよ」とかにして。そうしたら「娘に頼んで入れてもらうか」ぐらいの感じになって、使う人も増えるのかなって。
佐藤：デジタル化については、ここ２、３年でだいぶいい方向に進んでいると思います。
飯田：自連協としても来年度、LINEWORKSやInstagramなどのSNSの導入を検討したいと考えているところです。
裏：ちなみに、このななかまどの編集後記もAIで書いてみました。デジタルの進化はすごいですよね。
佐藤：その発想、素晴らしいです。
ヒロ：デジタル化だけじゃないですが、常識にとらわれずに、考え方をリセットして色々な人に声かけしてみると、若い人たちの中で「何かやらないか？」って言う人が出てくるかもしれませんよね。若い人に任せてみることで、思いもよらない新しい課題解決方法が出てくるかもしれません。

令和７年度 江別・野幌・大麻地区連主催

市長との対話集会

10/31　大麻地区自治連合会連絡協議会

＜テーマ１　高齢者が安心して暮らしてもらうための施策について＞

要　望

高齢化に伴い、病気や緊急時等に備えた緊急連絡カードの導入、災害時の安否確認・避難行動要支援者避難支援制度の有効的な活用、孤独・孤立対策として行政による高齢者への定期訪問や電話での安否確認を実施してほしいです。また、外出機会の促進策として、高齢者の免許返納に伴う交通費の助成を要望します。

回　答

病気や緊急時等の対応及び高齢者への定期訪問、電話による安否確認については、「緊急通報サービス事業」により、民間サービスを利用する際の助成を行っています。緊急時に救急ボタンを押すと、一定時間人感センサーの反応がなければ、合鍵を持った警備員が自宅に駆けつけ、必要に応じて救急車の要請を行うサービスがあります。

このサービスでは、24 時間いつでも看護師などに電話で健康相談もできますので、活用していただきたいと思います。

また、「救急袋（きゅうきゅうたい）」という仕組みもあり、服用している薬の名前や持病や既往歴、緊急連絡先等を書いたものを救急袋に入れ、冷蔵庫等に貼っておくと、緊急時に救急車を呼んだ際に駆けつけた隊員が情報を把握でき、迅速な処置をすることができます。

避難行動要支援者避難支援制度については、現在、浸水想定区域等に居住している避難行動要支援者から優先的に個別避難計画を作成中であり、その後市内全域へと広げていく予定です。

交通費の助成については、現在障がいのある方等一部の方にのみ助成しており、対象者の拡大にあたっては、高齢者福祉施策全体の優先順位の中で判断が必要であり、難しい状況です。

外出機会の促進としては、身近な社会参加として通いの場の周知啓発を行っているところです。

＜テーマ２　認知高齢者等と家族が安心して暮らせる街をめざして＞

要　望

認知症高齢者等への安全・安心対策として、対象者の私物等に貼られている QR コードをスマホで読み込むと家族の連絡先がわかる「見守り QR マークネットワーク」の導入、リアルタイムで対象者の所在がわかるよう GPS 端末の支給を要望します。

回　答

現在、市では、「みまもりあいステッカー事業」を行っています。衣類や持ち物にステッカーを貼り付け、帰宅困難になった高齢者を発見した方が、ステッカーに記載の電話番号に連絡し、10 桁の ID を伝えることで発見者と対象者のご家族が連絡をとることができるものです。

また、GPS 機器による認知症高齢者等への早期発見・保護を目的とした助成も行っていますが、常に身に着けてもらうための方法について今後検討してまいります。

11/6　江別地区自治会連絡協議会

＜テーマ　江別駅周辺の「まちづくり」と「活性化」について＞

要　望

旧江別小学校跡地利活用事業を進めるにあたり、江別駅周辺への駐車場の設置、駅舎や周辺施設の改装・整備等も含めて検討してほしいです。

回　答

江別駅周辺の活性化は、長年にわたり市にとって大きな課題の１つです。旧江別小学校跡地については、令和７年 10 月から利活用に向けた事業者の公募を行っており、生活利便に寄与し、水害の際にも一時的に周辺住民の避難を受け入れる機能がある商業施設の誘致を行いたいと考えています。

駐車場については、現在市営で設置する計画はありませんが、今後、江別駅周辺に大型の商業施設ができれば一定程度の駐車台数が確保できると考えています。

駅舎の改装については、JR 北海道において検討すべきものであるため、市においては駅前広場の整備をはじめ、駅周辺の活性化について検討を進めてまいります。

「四季のみち」の園路は公園施設の長寿命化計画に基づき点検を行っていますが、安全に支障がない状況であり現在改修を予定しておりません。また、園路すべてをれんがにするとアスファルト舗装の約３倍の費用がかかるため。今後、改修等が必要になった際には、部分的に使用するなどバランスを見て検討を進めてまいります。

青年センターは老朽化が進んでいることから、財源のことを考慮した上で改築について検討していきたいと考えています。